青森保健大雑誌　13, 33, 2012

特集

「被災地支援で見えてきた課題の共有」によせて

【コーディネーター】　青森県立保健大学看護学科教授　中村　由美子[1)]

2011年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災によって、多くの尊い命が失われるとともに、多くの方々の生活基盤は破壊され、その復興の道は険しいものとなっております。この場をお借りし、被災された全ての方々に対し心よりお悔やみ、お見舞いを申し上げる次第でございます。

被災地においては、様々な保健医療福祉の職能団体や専門職者が今もなお精力的な活動を行っております。現地の状況は日々変化していき、被災直後の状況と比べ、時間の経過があってこそ明らかになる課題があり、その解決が今後の被災地支援において大切となると考え、今回の青森県保健医療福祉研究発表会シンポジウムでは、これまでの被災地支援活動の中で、支援活動を続けていく上で見えてきた課題を意識しながら、各専門領域で実際に支援を行ってきた方々をシンポジストにお迎えし、その活動の内容をご紹介いただくと共に、それぞれの立場から見えてきた課題を報告していただきました。

その上で、シンポジスト以外の来場の方々からも意見を頂戴し、保健医療福祉専門職者間で課題を共有し、今後の全人的な支援活動（ヒューマンケア）につなげていくことを本シンポジウムの「ねらい」とし、一定の実現を見たものと思っております。

更に、本シンポジウムの内容が今後も必要とされる被災地での支援活動、あるいは次に起こるかもしれない災害での支援活動がより効果的なものとなることへの示唆となれば幸いでございます。

蛇足ではございますが、本学では現在、被災地支援活動として「モーリー笑顔プロジェクト」を立ち上げ、現在も活動を行っております。このプロジェクトでは被災地の一つである岩手県野田村を対象に本学教職員、そして学生が一体となって地域に、そして住民の方々に寄り添いながら継続的、長期的に支援活動を実施しております。この活動の輪を少しずつではありますが広げていくことにより、東日本大震災からの力強い復興を微力ながら支えていくために努めてまいる所存でございます。今後とも御指導、御支援を賜りますようお願いいたします。

【特集】　2011年度青森県保健医療福祉研究発表会シンポジウム
テーマ「被災地支援で見えてきた課題の共有」

【シンポジスト】

被災地支援で見えてきた課題の共有
～日本看護協会と都道府県看護協会における災害支援体制について～
社団法人青森県看護協会　事業課長　石　岡　基　江

東日本大震災における被災地支援活動に参加して
青森県社会福祉士会　介護認定調査員　宮　古　道　子

東日本大震災後の被災地支援　－震災後の被災地での理学療法のニーズ－
医療法人整友会　弘前記念病院　リハビリテーション科　苫米地　真理子

管理栄養士の役割－日本栄養士会の取組みから－
青森県立保健大学健康科学部栄養学科　講師　齋　藤　長　徳

1）青森県立保健大学健康科学部看護学科
Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Aomori University of Health and Welfare